

松本亀次郎研究 : その教育観と実践

二見, 剛史

<https://hdl.handle.net/2324/7157404>

出版情報 : Kyushu University, 2023, 博士 (教育学), 論文博士
バージョン :
権利関係 :

氏名	二見剛史			
論文名	松本亀次郎研究 ―その教育観と実践			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	竹熊尚夫
	副査	九州大学	教授	野々村淑子
	副査	九州大学	教授	江口 潔
	副査	九州大学	教授	黒木俊秀

論文審査の結果の要旨

本論文は、戦前、来日中国人留学生たちに多大な影響を与えた教育家兼研究者である松本亀次郎を総合的に探究したものである。著者は明治以降昭和戦前までの日中両国の教育関係の中で、中国人学生への大学予備教育に携わった松本亀次郎の教育実践からそのリベラルな教育観とそれが培われたプロセスを丹念に描き出している。本論ではまず、松本亀次郎の経歴に沿って、生い立ちから師範学校までに培われた松本の教育観、日本語教育の蓄積と実績を纏め、これを踏まえて次の段階である、「宏文学院」と以降の「京師法政學堂」、そして「日華同人共立」のもと設立された「東亜高等予備学校」での松本の実践記録を通して松本の学問観、教育者像への展開を明らかにした。また、それぞれの学校においては学校設置理念、教育制度、教育内容、日本人教員の教育実践等を、各機関の時代的な問題点も踏まえながら、諸資料の多面的かつ詳細な分析を行っており、これにより中国人の日本留学への日本語教育や「お雇い日本人教習」の活動が、国際関係史の中で松本の教育観と実践的教育思想に結びついてきたことを示す一方、松本が足場とした各教育機関での教育実践を重層的に考察することで日中両国人間の交流が、松本亀次郎の教育観に変化を生じさせ、帰国後の「東亜高等予備学校」という本格的予備教育機関創設の大きな礎になったことを示した。著者はこのような松本の実践的思想と教育観は日華共存共栄論に基づいた、普遍的なアカデミズム、リベラリズム、そしてヒューマニズムの融合として論じているが、当時の時代背景においても日本語教育及び予備教育の実践のなかで醸成され、国際教育上の信念となったと結論づけている。以上のように、日中関係交流史研究の中ですくい上げられた松本自身の発言や実践とその実践から紡がれた理念は、現代においても高等教育ならびに教育研究における指針をなすものであると高く評価することができる。

よって、本論文は博士（教育学）の学位に値するものと認める。